

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当法人の基本理念である「地域への還元」の元に、併設施設と一体の帯広けいせい苑「ケア理念」に沿い、グループホーム基本理念を、地域に根ざしたサービス事業所の理念として掲げている。	○	もっともっと自らの存在を示し、より地域に溶け込んでいきたいと思いません。まだまだ出来ていない事、出来ることを見つけて実行しようと思いません。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の基本理念に基づき、開設時研修にて、職員全員へ周知している。ケース会議などにおける利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となるようにしている。	○	日常の慢性的な忙しさの中、つつい業務優先になってしまう時があり日々、反省です。常に心に余裕を持って接していくようにしたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居契約時に、当施設の理念及びケアの考え方、環境としての家族の役割について説明し、『施設に入ったから何もできない』という理解ではなく、家族も一緒にケアしていくことをお願いしている。また、運営推進委員会でも説明している。	○	今後も入居者家族に対し、共に支援する関係作りへの考え方を伝え続けていくと同時に、家族や地域に様々な方法で施設や利用者の状況を伝えながら、この地域にある施設として運営していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。			
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	併設の特別養護老人ホーム、生活支援ハウス等の施設利用者との交流をはじめ、近所の障害者授産施設の行事への参加などを行っている。また地元の町内会への入会により、より地元住民との日常的交流を・・・と町内会会議に参加したが、町内会に入会せずともお互いに行事などを知らせあったり、気軽に交流しては・・・とアドバイスあり	○	運営推進委員会を通じて、施設側からのアプローチを積極的に行い、より地域と関係が密になるように取り組んでいきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	特別なことはまだまだ出来ていませんが、併設の特別養護老人ホーム、包括支援センターなどと連携し、行事などのお誘いや併設の認知症デイサービスと合同で運営推進委員会と交流を行っています。	○	もっともっと当ホームで出来ることを計画して地域の高齢者に楽しんで頂けるよう努力していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の設問を確認し、改善に取り組んでいる。	○	今後も地域に向けての様々な取り組みを行う中で、施設やそのケアを見て頂いたりすることが増えることを期待する中で、様々な観点での意見を言ってもらえるよう配慮していきたいと考えています。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者が生活しやすい環境を作るための相談をさせて頂いたり、日常の生活を知って頂くための活動報告を行っています。	○	会議が不定期開催となってしまいました。今後は定間隔での開催を行いたいと思います。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員の施設見学や実習をおけいれたり、介護保険課に意見やサービスに関しての情報を頂いたりしている。敬老会への出席もして頂いた。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての勉強会や今後どのように受け入れていくかについては、まだ行っていない。	○	勉強会を計画し、職員の理解と活用意識向上に役立てていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	当施設の『ケア理念』を共有し、抑制や虐待の行われない介護が提供できるようみずごさないよう注意を払い防止に努めています。	○	法人全体としての取り組みとして事故防止委員会を設置している。その中で学習会を開き、学んでいく機会を定期的に設置していく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者・家族に十分な説明を行い、理解・納得・同意を頂いてから契約を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からスタッフや外部の第三者委員等に不満や苦情を言われることが少ない分、家族や第三者委員に施設を知っていただき、運営の健全化を図っています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	通院は、都合がつかず家族には医療機関で待ち合わせをし、受診に立ち会っていただいたり、また利用者のみの場合には通院後の結果等を連絡している。また毎月の郵便にて、金銭管理を行っている利用者家族には金銭出納票の写しを送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付係を施設内に配置していると同時に、第三者委員をもうけ利用者・家族より苦情を言いやすい配慮をいっている。〔利用契約時に説明している〕	○	普段の面会時や、家族参加行事等の機会を設け、スタッフとの関係をより深めることによって、「話しやすい」状況を作りつつ、共に支えあう関係を作っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例の会議や日常の中でスタッフの相談を聞き、意見を出し合いながら運営している。	○	スタッフがより顔を合わせて話せる機会を増やし、より多くの声が出し合えるよう改善していきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の重度化、食事援助に時間を要する等、職員体制を勤務の延長や休日出勤・シフト時間の変更・時間の見直しを話し合い実行しています。	○	職員の理解・協力を得て出来る限り、柔軟な対応をしていますが、職員にもどうしても困難な事情で対応できない時は管理者がシフトを補っています。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	来年度からの新事業の関係で職員の異動があり、入居者の方々には何度か説明を重ねたこともあり、大きなダメージはなかったが、家族の中には新しい職員が増え大丈夫なのか・・・という声があると運営推進委員会の中から話があった。話し合いの結果、早急に顔写真入りの通信を配布することにした。	○	心配をお掛けすることのないように、早めにお伝えするようにします。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	当施設は育成目的の人事考課を取り入れており、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成に取り組んでいます。また外部研修への参加や併設施設との合同で苑内研修会などを企画し、実施している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	去年から行っている市内のグループホームとの間で、互いの施設の夏祭りに参加したり、近隣の高齢者下宿の方々と一緒にバス遠足に出掛けるなどして交流をはかっている。また、管理者同士の日常的な意見交換も行っている。	○	今後は、職員の交換研修にも取り組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人全体の活動として、作業管理委員会を設置し、職員の働きやすい環境を作る取り組みを行っている。また、長期休暇や有給などの希望を調整対応しています。	○	人間関係が狭くなりストレスがたまりやすい環境になりがちなので、併設施設スタッフとの間で行き来できるよう交流を行っていきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフの日常の取り組みや仕事ぶりに理解を示し、共感できるよう努めている。また、職員が向上心を持って仕事が出来るよう育成目的として人事考課を取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には必ずご本人に会って顔合わせし、この時に色々な会話を交わしながら、本人の不安・希望・悩みなどを伺います。入居後は困ったときにすぐ対応が出来るように職員が近くで見守り、声掛けを行います。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談や見学に来られた際には、今介護者や本人がおかれている状況を理解し、必要な援助を行っている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況を聴取し、必要時には、居宅介護支援事業所や現在利用している介護サービス事業所等に連絡し相談内容等解決に向けた動きをとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ショートステイを利用しながら入所に至るケースが多い中、本人に今回の引越しが最後と言う事を理解して頂き、今の過ごし方の気に入っている所や不満な所・希望等その人らしい生活とは何だろう・・ということ、面接を通じて情報を集め、受け入れ方を検討している。	○	入居後も疑問など無いかの確認を行い、あった時には丁寧にお答えするようにしていますが、今後も不安・不信・が無いように紹介・説明は丁寧に行っていきたいと思います。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が「どうしたいのか」ということを念頭におき、生活全般において一緒に活動をするようにしています。その活動を通じて助けて頂いたり、教えて頂いたり、一緒に考えたりしています。	○	身体的に重度化してきていますが、1人1人の役割や望む生活・その人らしさを忘れずに、環境や生活づくりをしていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。			
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係を良好に保てるよう、関係の理解や協力を行っている。行事や通院など定期的に行いながら、ご家族と一緒に過ごせる場の提供に配慮を行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所・人とのつながりが切れてしまわないように支援している。(通っていた美容室・デイサービス・銭湯など)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。			
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	すでに、退去した利用者の家族が、そば打ちにきてくれ皆さん、毎年楽しみにしている。また、最近では併設の特別養護老人ホームへ入所されることが殆どなので、時間を作っては入所者のかたと職員とで遊びに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から一人一人と会話をする時間をできるだけ長く作り、そのかわりのなかで本人の意向の把握に努めています。そして、会議や日々の中で実現に向けて話し合います。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人・家族より生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境これまでのサービス利用状況の経過等の把握に努めています。	○	入居後も継続して家族の面会や身近な家族以外の人にも情報を頂き、より『その人らしさ』の把握に努めたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人一人の生活・行動を見守りながら、体調の変化や気分の状況を常に把握している。また、本人の『出来る』部分を維持できるよう生活の中で実践していく。職員間でも話をしながら本人のあるべき姿の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入所時や状態変化時に状態をアセスメントし、本人・家族の思いや意向も踏まえながら、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入所時の情報を基に、本人の行動を職員が考察し家族による新たな情報も合わせてアセスメントし介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケア記録を毎日記入して、スタッフで毎日申し継ぎ、観覧しながら日常のケア実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	体調不良時の通院などは、家族が対応困難な時はスタッフが柔軟に対応している。また、医療連携面では、主治医の指示の元点滴などの処置対応がスムーズに出来るよう体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	身体面の重度化により、併設のデイサービスのリフト浴槽を借りたり、入所前に元々利用していたデイサービスに遊びに行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前の主治医にかかることを基本としており、通院の援助を継続して行っている。家族の同行を原則としているが、立ち会えない場合は職員による代行を行い、結果を報告している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設の特養の主治医が精神科医であり、週2回の往診時に必要なら診察を受けることができる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の特養の看護師と日常的な連携を行っており、日常の健康管理や必要時の対応や処置、アドバイスを得ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院をした場合には、食事時間に合わせて面会に行くように習慣化されている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の重度化に対し、家族の意向を確認しグループホームで可能なケアについて説明し対応を行っている。また、週末の看取り指針を作成している。	○	重度化しても出来る限りグループホームで過ごさせてあげたいとの家族の意向が多いため、その希望に応えられるように体制を整えていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。			



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>一般的なグループホームの説明、その上で当グループホームがどんな所なのか、日常の流れや年間スケジュールと共に、他の入居者の紹介、居室や共同スペース、持ち込み品の説明をする。その上で何が不安、心配かを解決していく。</p>		<p>入居後の本人、家族等への再説明とフォロー、また家族への遠慮のない日常生活への参加と面会の呼びかけ</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシー保守や秘密事項厳守を前提に、一人ひとりに合わせた会話や会話の援助と共に、話の内容や周囲の状況を合わせながらホールや居室を活用し、安心して頂く。個人情報の取り扱いは職員のみで、持出し厳禁。</p>	○	<p>話題や本人の様子、周囲の状況を考慮して、場所や職員を変える等の配慮。また面会の際の配慮と工夫。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員の押し付けにならない事を前提に、障害や判断する力等を総合的に考えて、現在の能力と潜在力を発揮・表出できる事を目指す。</p>	○	<p>家族や他機関、職員個々の情報を、さらに集約し活用の材料とする。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>それぞれの方のペースを大切にしながらも、なぜそのペースなのか？その本意を確認しながら、将来の希望を作っていく。</p>	○	<p>今までのペースを基本に、新しいことなどの選択肢を用意する。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人、家族の要望への対応は勿論の事、「どんなふうになりたい(したい)?」という気持ちを聞いていく。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員だけで用意、片付けをせずに、出来る所・やりたい所で活躍して頂く。食材の買出しには同伴し、料理や調理方法を思いついたり、思い出したり、イメージできるように取り組む。また食事場面では独りで食べたい方、みんなで楽しみたい方等、雰囲気作りも大切にする。</p>	○	<p>・食材の買出し ・出かけなくても、欲しい物や食べたい物を聞く</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好きな物、嫌いな物、食べ難い物等配慮しながら、「楽しみ」として配慮する。またお小遣いにて、おやつや漬物など買う楽しみを大切にしている。	○	いつもの嗜好品だけでなく、いろいろな話題にあがったりするもの、ちょっとでも興味を引かれた物も大事にしていく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄自体にだけ注意するのではなく、トイレに行ける筋力、排泄したい感覚を取り戻す。	○	「排泄」があるかどうかきちんと聞く 「トイレだ！」とイメージできる環境
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴希望の時、実施。また隣接のデイサービスの施設も利用している。(身体的安楽、交流場面として)	○	現在の設備では、身体的に入浴困難な方が多い。設備改善を健在検討中。また、入浴を面倒になり、拒む方が多いので、回数もそれぞれに偏りやすいので、アプローチ・実施する職員を勤務にあわせて決める。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ベッドや布団など、その方の希望に応じて対応する。また居室だけでなく、ホールでも日中など、気軽に休めるように配慮する。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	これまでの生活上の楽しみや役割を出来るだけ継続できるようにする。畑作りなど実践する中で、直接作るだけでなく、畑の出来具合などや天気を気にするようになってる場面が見られた。	○	・冬に向けた活動・個人の生活暦などの再調査(様々な家族や他機関など)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金をお預かりしている方、自己管理されている方がいる。家族に了解を得ながら、要望に応じて使用されている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	温泉や外食を中心に、それぞれの希望に応じて実施。またその日の気分や発想によって、出かける事もある。	○	全員での外出など行事の実施も更に検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行ってみたいという希望を中心に対応。家族の積極的な参加を促す働きかけが必要。	○	家族・職員間、家族間との交流の機会を考える。(形だけではなく、実質的な交流)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	年賀状のやり取りが中心。電話は、自由に使用できる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者にとって大切なお客様として、意識しおもてなしをする。また時には、家族との交流が積極的になるように、橋渡しもする。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束はなし。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中はセンサーはあるが、来客用ベルとして機能している事が多い。施錠していない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	監視にならないう、その時の状態を見守っていくようにする。また事故の回避にも迅速に対応するように心がけている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険なものだけでなく、物の配置や片付けをする。やりっぱなしの防止を職員間でも常に喚起する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	苑全体の事故防止委員会にて分析、検討する。その上で、当GHの予測される事に予防対策を講じる。日々の職員間の連絡が重要。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	隣接の他施設との連携対応とともに、連絡網や緊急時マニュアルを配備する。また苑内外の勉強会に参加する。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練の実施。具体的な地域での災害対策はない。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日常生活の様子とともに、「どのような生活を送って頂くか？」という確認、合意してもらおうことと、その上でリスクマネージメントを協議する。	○	日々の状態変化や状況の家族との密な連絡
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の様子、バイタルだけでない異変をキャッチし、NSや家族、医療機関を通じ、迅速に対応する。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	NSの解説により、個々の薬の状況を把握する。またそのことによる様子の変化や状況をまたNSに伝えることで、健康上の薬についてより把握する。	○	NSIによる主治医の指示の再確認
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便のチェックをする。また頓服としての下剤を服用した場合、その様子にも注意を払う。薬だけに頼ることなく、全体的な健康状態のチェック事項として、水分や食事量、室温や活動の様子や調整もしていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの準備を中心に、歯ブラシ、入れ歯の手入れをしているが、十分に行き届いていない方もいる。	○	入れ歯の定期的なメンテナンス
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	買い物に出かけた職員によって献立を考え、それによってその日の職員により調理。献立を記録する事で、偏らないように配慮する。また都度の個々の実際の食分量、水分量も把握しながら、おやつや代替の食事にも用意する。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設と合同で感染対策委員会を定期的に開催している。また感染マニュアルも共有し対応している。日常的には、排泄援助時に手洗い・消毒を徹底しペーパータオルを使用している。また、毎年11月にインフルエンザの予防接種を利用者・職員に行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・器具は清潔に保ち、食器は洗浄乾燥機を使用し衛生的に管理している。食材は賞味期限を確認し、期限が過ぎているものは廃棄するなど徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節感を取り入れた空間を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花、写真、行事の装飾物を入居者と一緒に飾る、その方の好きな敷物・座布団・音楽・カップ等様々なものが居間に持ち込まれ自分の存在を表現しています。入居者は1日中、居間で過ごされソファで横になり屋敷をしたり、新聞・テレビを見たり、料理をしたりとさまざまな姿で過ごされています。	○	居間の中でも一箇所にかたまりがちなので、もっと空間利用ができるように工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の中に、二箇所たまり場があります。ホッと一息ついたり、気の合う人と洗濯物をたたんだり、外の様子を眺めたり、こっそりお菓子を食べたりと自由に使い分けています。	○	整理整頓を心がけ、雰囲気のある空間を作っていきたいです。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込み品は全く自由です。出来るだけ使い慣れた家具・身の回り品を持ち込まれるよう呼びかけています。自室は本人・家族、本人・職員で相談しながら使いやすいように作っています。	○	殺風景な部屋にならないように配慮していますが、一部家族の気持ちの整理がつかず、まだ取り掛かっていない部屋もありますので進めていきたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房設備が整っており、一年中快適に過ごすことが出来ますが、出来るだけ自然の風、空気を入れるようにしています。	○	冬季間どうしても空気の乾燥が激しくなり、湿度の調整に苦労しています。洗濯物を干すだけでは、湿度が足りないので大型の加湿器を回すなどして湿度を維持していきたいです。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりなど安全に生活できる工夫がされている。また、視力障害のある方の居室は、その方の自力移動を配慮しできるだけ障害物を置かないなどの配慮をしている。	○	身体面での重度化により、入浴に頭を悩ませている。個々に合わせた手すりの設置検討を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者個々のわかる事を個別に把握し、利用者に沿った環境を整えている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	施設前と裏庭に菜園、裏芝生には野鳥のえさ台など作り、活動の刺激になるようにしている。	○	もっと近隣の方々が集まってきて、お茶を飲んだり、四季を感じられる草花を眺めたりと気持ちが和む空間となるように力をいれていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
----	-----------------------------------	------------------------	--------------------------------

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

お年寄り個々が、「自分は必要とされている」という気持ちが残っていく様、役割や活動を通じて取り組んでいます。また、家族の方々がもっと生活の中に入ってこれるように取り組んでいきたいです。